

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 04-371198
(43)Date of publication of application : 24. 12. 1992

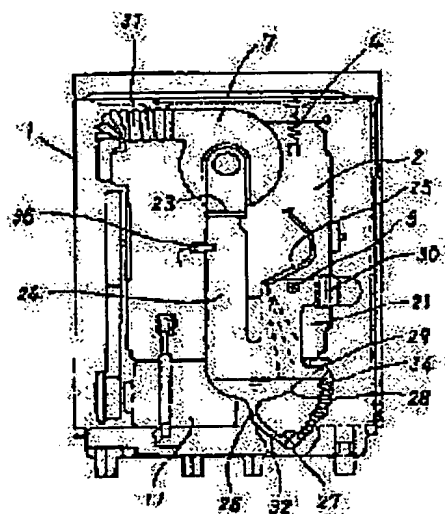
(51)Int. Cl. D06F 58/02
D06F 58/22

(21)Application number : 03-145734 (71)Applicant : SHARP CORP
(22)Date of filing : 18.06.1991 (72)Inventor : KITAMURA SUSUMU

(54) DRUM TYPE WASHING AND DRYING MACHINE**(57)Abstract:**

PURPOSE: To enhance performance of a heat exchanger for dehumidification.

CONSTITUTION: One end of a U-shape ventilation pipe 24 is connected to a hot air discharge port 22 of a water tank 2 while the other end is connected to an intake port 23 of a blower 7. A cooling water spray nozzle 25 is fitted to a hot air discharge port 22 side of the ventilation pipe 24, and water is stored in a bending part 28 of the ventilation pipe 24. With this construction, a cross-sectional area of a hot air circulation path is enlarged and a contact area between cooling water from the cooling water spray nozzle 25 and air of high temperature and high humidity is increased so that cooling and dehumidifying capacity for hot air can be increased.

**LEGAL STATUS**

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平4-371198

(43) 公開日 平成4年(1992)12月24日

(51) Int.Cl.⁵

D 0 6 F 58/02
58/22

識別記号

F 6704-3B
6704-3B

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数4(全 7 頁)

(21) 出願番号 特願平3-145734

(22) 出願日 平成3年(1991)6月18日

(71) 出願人 000005049

シャープ株式会社

大阪府大阪市阿倍野区長池町22番22号

(72) 発明者 北村 進

大阪市阿倍野区長池町22番22号 シャープ
株式会社内

(74) 代理人 弁理士 中村 恒久

(54) 【発明の名称】 ドラム式洗濯乾燥機

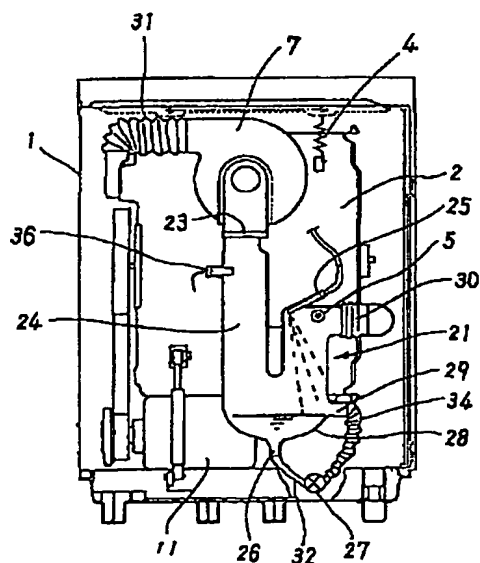
(57) 【要約】

【目的】 除湿用熱交換器の性能を向上させる。

【構成】 U字状の通風管24の一端を水槽2の温風吐出口22に接続し、他端を送風機7の吸込口23に接続する。冷却水噴霧ノズル25を通風管24の温風吐出口22側に取り付ける。通風管24の曲がり部28に貯水する。

【効果】 温風循環経路の断面積が大きくなり、冷却水噴霧ノズルからの冷却水と高温多湿空気の接触面積が増大し、温風に対する冷却、除湿能力が高まる。

図 1



2 水槽 7 送風機 21 除湿用熱交換器
24 通風管 25 冷却水噴霧ノズル 26 排水口
27 開閉弁 29 オーバーフロー口

1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 外箱に内装された水槽と、該水槽内に回転可能に支持され通水および通風のための多数の小孔を有する被洗濯物収容ドラムと、ドラム内の被洗濯物を送風機からの温風により乾燥させる乾燥装置とを備えたドラム式洗濯乾燥機において、前記乾燥装置に、水槽から排出された被洗濯物の水蒸気を冷却してその水分を凝縮する除湿用熱交換器が設けられ、該熱交換器は、水槽の温風吐出口と送風機の吸込口との間を連結するU字状通風管と、該通風管の前記温風吐出口側に配された冷却水噴霧ノズルと、前記通風管の底部に形成された排水口と、該排水口を開閉する開閉弁とから構成され、前記通風管のU字状曲がり部に一定量貯水するために、前記排水口より上方で前記曲がり部の上壁よりも下方にオーバーフロー口が形成されたことを特徴とするドラム式洗濯乾燥機。

【請求項2】 請求項1記載のドラム式洗濯乾燥機において、水槽の温風吐出口は、洗濯すすぎ時の水面より上方となる位置に配され、水槽のオーバーフロー口と兼用されたことを特徴とするドラム式洗濯乾燥機。

【請求項3】 請求項1記載のドラム式洗濯乾燥機において、排水口の開閉弁を制御する制御装置が設けられ、該制御装置は、乾燥運転中に前記開閉弁を間欠的に開放状態にして通風管に貯められた水を排出する開閉手段を有せしめられたことを特徴とするドラム式洗濯乾燥機。

【請求項4】 外箱に内装された水槽と、該水槽内に回転可能に支持され通水および通風のための多数の小孔を有する被洗濯物収容ドラムと、ドラム内の被洗濯物を送風機からの温風により乾燥させる乾燥装置とを備えたドラム式洗濯乾燥機において、前記乾燥装置に、水槽から排出された被洗濯物の水蒸気を冷却してその水分を凝縮する除湿用熱交換器が設けられ、該熱交換器の入口側および出口側に温度センサが配設され、両センサからの出力信号により前記乾燥装置の運転を制御する制御装置が設けられ、該制御装置は両センサから検出された各温度の差により乾燥終了か否かを判断する終了判断手段を有せしめられたことを特徴とするドラム式洗濯乾燥機。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、洗濯から乾燥までを一つのドラム内で行うドラム式洗濯乾燥機に係り、さらに詳しくは除湿用熱交換器の性能改善、および配管等の合理化に関する。

【0002】

【従来の技術】 ドラム式洗濯乾燥機は、ドラムが水平軸を中心に回転する構造となっており、洗濯から乾燥までを同一のドラムで行えるため、洗濯、脱水から乾燥までの機能を兼ね備えた洗濯乾燥機の代表的なものとなっている。

【0003】 従来のドラム式洗濯乾燥機は、図5、6の

2

如く、外箱1からばね4で吊り下げられた水槽2と、この水槽2の内側で水平軸3aを中心に回転するように配されたドラム3との二重構造となつている。水槽2は、運転中の振動を吸収するためばね4で吊り下げられており、洗濯液や脱水液を貯え、かつ排出する機能をもっている。ドラム3は、その周壁全体に洗濯時の吸水、脱水時の排水および乾燥時の温風通過用に多数の小孔5を有している。

【0004】 そして、乾燥用ヒータ6は、水槽2の上部内側にドラム3の外周に沿って取付けられ、乾燥工程時に温風をドラム3の上方から下方に流し、水槽2の外側を通つて再びドラム3に循環させるため、送風機7および循環パイプ8が設けられている。

【0005】 なお、図中、9は排水弁、10は排水用ポンプ、11はドラム回転用モータである。

【0006】 洗い工程は、ドラム3内に被洗濯物を入れ、洗剤を溶かした洗濯水を上方から滴下して被洗濯物に含ませ、ドラム3を低速回転させることにより行われる。ドラム3内の被洗濯物は、ドラム3の回転による遠心力とバツフル（図示せず）でドラム3の頂上付近まで持ち上げられた後、自重により落下する（タンプリングという）。このタンプリングが繰り返されて、被洗濯物は落下時の衝撃力によりタタキ洗われる。すすぎも同様にして行われる。

【0007】 脱水工程は、ドラム3を高速回転させ、その遠心力を利用して被洗濯物をドラム3の周壁内面に押し付けるような形で行う。このとき、水はドラム3の小孔5から飛ばされ、水槽2の内面を伝つて、その下部に導かれ排水弁9を経て機外へ排出される。高い位置に排水する場合は排水用ポンプ10を用いることもある。

【0008】 乾燥工程は、乾燥用ヒータ6に通電し水槽2内部の空気を加熱しながら、ドラム3を低速回転して行う。乾燥用ヒータ6により加熱され高温となつた水槽2の空気は、ドラム3の回転により攪拌され、水槽2内部全体（被洗濯物を含む）の温度を上昇させ被洗濯物に含まれる水分を蒸発させる。この高温多湿状態の空気は、水槽2の底部に接続された循環パイプ8から送風機7により吸引されて水槽2に導かれ、再び乾燥用ヒータ6で加熱されるという経路で循環している。水槽2の底部から吸引された高温多湿状態の空気は、循環パイプ8の下方内部に貯っている冷却水と直接接触し、冷却され水分を凝縮されて、その水分は機外へ排出される。

【0009】 以上のサイクルを繰り返すことにより、被洗濯物は洗濯乾燥される。

【0010】

【発明が解決しようとする課題】 従来のドラム式洗濯乾燥機で被洗濯物を乾燥する場合、ドラム3内で加熱され高温多湿状態となつた乾燥用空気は循環パイプ8内で冷却され除湿されるが、冷却水との接触が不十分で循環する空気の温度が低くならず、乾燥温度が高くなるため、

3

布を傷めたり機器全体の温度が上昇するなどの問題があった。また、被洗濯物から発生した糸屑等は、空気に吹き飛ばされて水槽2から排出され、循環パイプ8内の冷却水に捕捉される。しかし、循環パイプが細く、糸屑がたまってつまりやすいという傾向もある。

【0011】一方、構造的に見ても、水槽2の水位が上昇した場合に機外に水を排出するオーバーフロー管が水槽2に必要となる、温風循環温度検知等のためのセンサを水槽2に取付ける必要があるなど、水槽2に組み付ける部品が多くあり、組立作業性に課題を残している。

【0012】本発明は、上記に鑑み、乾燥用空気に対する熱交換性能を向上させ、しかも乾燥用空気中に含まれる糸屑を容易に除去できるドラム式洗濯乾燥機の提供を目的とする。

【0013】また、乾燥に必要な部品を一体的に組み込むことにより、組立性を向上し得るドラム式洗濯乾燥機の提供を目的とする。

【0014】

【課題を解決するための手段】本発明請求項1による課題解決手段は、図1の如く、ドラム3内の被洗濯物を送風機7からの温風により乾燥させる乾燥装置20に、水槽2から排出された被洗濯物の水蒸気を冷却してその水分を凝縮する除湿用熱交換器21が設けられ、該熱交換器21は、水槽2の温風吐出口22と送風機7の吸込口23との間を連結するU字状通風管24と、該通風管24の前記温風吐出口22側に配された冷却水噴霧ノズル25と、前記通風管24の底部に形成された排水口26と、該排水口26を開閉する開閉弁27とから構成され、前記通風管24のU字状曲がり部28に一定量貯水するために、前記排水口26より上方で前記曲がり部28の上壁よりも下方にオーバーフロー口29が形成されたものである。

【0015】請求項2では、水槽2の温風吐出口22は、洗濯すすぎ時の水面より上方となる位置に配され、水槽2のオーバーフロー口と兼用されたものである。

【0016】請求項3では、排水口26の開閉弁27を制御する制御装置41が設けられ、該制御装置41は、乾燥運転中に前記開閉弁27を間欠的に開放状態にして通風管24に貯められた水を排出する開閉手段42を有せしめられたものである。

【0017】請求項4では、乾燥装置20に、水槽2から排出された被洗濯物の水蒸気を冷却してその水分を凝縮する除湿用熱交換器21が設けられ、該熱交換器21の入口側および出口側に温度センサ35、36が配設され、両センサ35、36からの出力信号により前記乾燥装置20の運転を制御する制御装置41が設けられ、該制御装置41は両センサ35、36から検出された各温度の差により乾燥終了か否かを判断する終了判断手段43を有せしめられたものである

【0018】

4

【作用】上記課題解決手段において、乾燥運転開始の信号が入ると開閉弁27が閉じ、乾燥装置20が作動される。

【0019】そして、水槽2内部で加熱され被洗濯物を乾燥させて高温多湿状態となつた循環空気は、温風吐出口22から通風管24に入り、冷却水噴霧ノズル25から散布された冷却水と接触し、さらに通風管24の下部に貯えられた冷却水の水面と接触して凝縮され、水分を放出した後、向きを上方に変え送風機7の吸込口23へと導かれる。

【0020】ここで、冷却凝縮された水分は冷却水と共にオーバーフロー口29から機外へ排出される。また、乾燥運転中においては、被洗濯物から発生した糸屑等の微細な浮遊物も同時に温風吐出口22から排出され、噴霧ノズル25からの冷却水に付着して、通風管24の下部の貯水中に落下する。そして、開閉弁27は間欠的に開閉され、糸屑等の混じった水が排出される。

【0021】そして、乾燥工程中、温度過昇検知用センサ35および乾燥終了検知用センサ36で検出した各温度の差が所定値を越えると、制御装置41の終了判断手段43により乾燥が終了したと判断され、乾燥運転が停止される。

【0022】また、水位センサの故障等による水面の異常上昇時に、水を温風吐出口22から排出して、熱交換器21を介してオーバーフロー口29から機外に排水することができる。

【0023】

【実施例】以下、本発明の一実施例を図面に基づいて説明する。図1は本発明の一実施例を示すドラム式洗濯乾燥機の側面から見た概略図、図2は同じく正面から見た概略図、図3は除湿用熱交換器の断面図、図4は制御装置の機能ブロック図である。

【0024】本実施例のドラム式洗濯乾燥機は、図1、2の如く、外箱1に内装された水槽2と、該水槽2内に回転可能に支持され通水および通風のための多数の小孔を有する被洗濯物収容ドラム3と、ドラム3内の被洗濯物を送風機7からの温風により乾燥させる乾燥装置20とを備えている。

【0025】なお、前記水槽2およびドラム3の構造は、従来と同じであるので、詳細な説明は省略する。

【0026】前記乾燥装置20は、水槽2の上部内側に取付けられた乾燥用ヒータ6と、水槽2から排出された被洗濯物の水蒸気を冷却してその水分を凝縮する除湿用熱交換器21と、水槽2から熱交換器21を経て空気を循環させる送風機7とからなる。

【0027】前記熱交換器21は、水槽2の温風吐出口22と送風機7の吸込口23との間を連結するU字状通風管24と、該通風管24の前記温風吐出口22側に配された冷却水噴霧ノズル25と、前記通風管24の底部に形成された排水口26と、該排水口26を開閉する開

5

閉弁27とから構成され、前記通風管24のU字状曲がり部28に一定量貯水するために、前記排水口26より上方で前記曲がり部28の上壁よりも下方にオーバーフロー口29が形成されている。

【0028】前記通風管24は、曲がり部28が下側にくるように水槽2の側方に配され、入口側一端が入口ダクト30を介して水槽2の温風吐出口22に接続され、出口側他端は前記一端よりも高い位置で送風機7の吸込口23に接続されている。また、送風機7の吹出口は、出口ダクト31を介して水槽2の乾燥用ヒータ6の取付部に接続され、これらによつて温風の循環経路が構成されている。なお、前記温風吐出口22は、洗濯すすぎ時の水面より上方となる位置に配され、水槽2のオーバーフロー口と兼用されている。

【0029】前記冷却水噴霧ノズル25は、通風管24の入口側一端の上面に押着されており、図示しない給水装置からの水を下方に向けて噴射して、冷却水と高温多湿の循環空気との直接接面積を広くとることで冷却効果を大きくし、除湿性能の向上を図ると共に循環空気の温度を下げて、布の傷みを低減している。

【0030】前記排水口26は、通風管24の曲がり部28の下面に形成され、ドレンパイプ32が取付けられ、開閉弁27を介して排水弁9に接続される。そして、排水弁9には排水ホース33が接続され、機外に通じている。また、水槽2の底部に配設された内部排水管2aは開閉弁27と排水弁9の間に接続されて、洗濯時に洗濯水が熱交換器21内に流れ込まないようになっている。

【0031】前記オーバーフロー口29は、通風管24内の水面の面積が大きくとれる位置で、かつ循環空気の通風経路を小さくしない（すなわち、図3においてA部とB部の断面積に大きな差がない）所に設定されており、オーバーフロー口29には、オーバーフロー管34が接続され、排水ホース33の排水弁9より下流側に接続され、熱交換が終わる温度の高くなつた冷却水が、通電の有無に拘わらず常にオーバーフロー口29から排出され、オーバーフロー管34を通つて機外に排出される。

【0032】また、通風管24の入口側に温度過昇検知用センサ35が配設され、出口側に乾燥終了検知用センサ36が配設されており、両センサ35、36は、循環空気の温度を検知する温度センサからなる。

【0033】そして、ドラム式洗濯乾燥機には、スタートスイッチ40等の運転指令信号に基づいて前記開閉弁27の開閉を制御し、かつ前記温度センサ35、36からの出力信号により前記乾燥装置20の運転を制御する制御装置41が設けられている。

【0034】該制御装置41は、マイクロコンピュータからなり、スタートスイッチ40のオンによりあらかじめ設定されたタイミングで洗濯、すすぎ、脱水、乾燥工

6

程を実行させる機能の他に、乾燥運転中に前記開閉弁27を間欠的に開放状態にして通風管24に貯められた水を排出する開閉手段42と、前記温度センサ35、36から検出された各温度の差により乾燥終了か否かを判断する終了判断手段43と、前記温度過昇検知用センサ35あるいは乾燥終了検知用センサ36からの出力が設定値を越えたときに乾燥装置20の運転能力を低下させる温度過昇防止手段44とを有せしめられている。

【0035】前記終了判断手段43は、前記温度センサ35、36で検出した各温度の差が所定値を越えると乾燥が終了したと判断し、ヒータ6および送風機7への通電を停止させるとともに、ドラム回転用モータ11を停止させる機能を有している。

【0036】前記温度過昇防止手段44は、温度が上昇しすぎた場合に、ヒータ6の出力を低下するように通電を減少させる機能を有している。

【0037】なお、熱交換器21には、以上の部品の外に乾燥状態を検出するための温度センサ等の取付けも可能であることは勿論である。

【0038】つぎに、ドラム式洗濯乾燥機における乾燥工程時の乾燥用空気、および冷却水の流れを説明する。乾燥運転開始の信号が入ると開閉弁27が閉じ、乾燥用ヒータ6、送風機7、モータ11に通電される。

【0039】そして、水槽2内部で加熱され被洗濯物を乾燥させて高温多湿状態となつた循環空気は、温風吐出口22から入口ダクト30を経て通風管24に入り、冷却水噴霧ノズル25から散布された冷却水と接触し、さらに通風管24の下部に貯えられた冷却水の水面と接触して凝縮され、水分を放出した後、向きを上方に変え送風機7の吸込口へと導かれる。そして、出口ダクト31を介して水槽2に送られ、乾燥用ヒータ6に導かれ再び加熱される。

【0040】ここで、冷却凝縮された水分は冷却水と共にオーバーフロー口29からオーバーフロー管34を経て機外へ排出される。また、乾燥運転中においては、被洗濯物から発生した糸屑等の微細な浮遊物も同時に温風吐出口22から排出され、噴霧ノズル25からの冷却水に付着して、通風管24の下部の貯水中に落下する。そして、開閉弁27は間欠的に開閉され、糸屑等の混じった水が排出される。糸屑の排出時以外の大半の時間は閉じた状態となるため、冷却水はオーバーフロー口29の高さまで貯えられ、その水面を越えた分が排出されることになる。

【0041】そして、乾燥工程中、温度過昇検知用センサ35および乾燥終了検知用センサ36は循環空気の温度を検出しており、温度センサ35、36で検出した各温度の差が所定値を越えると、制御装置41の終了判断手段43により乾燥が終了したと判断され、乾燥運転が停止される。

【0042】また、通風管24の入口ダクト30と水槽

2のオーバーフロー口29の接続位置を洗濯、すすぎ時の水面より高く、洗濯物の投入口45等の開口部より低くすることで、水位センサの故障等による水面の異常上昇時に水を熱交換器21を介してオーバーフロー口29から機外に排出することができる。

【0043】なお、乾燥運転中、開閉弁27は間欠的に短時間開く以外は閉じた状態になっている。開閉弁27は運転終了も閉じた状態でも良いが、長期間使用しない場合や、冬期凍結の恐れのある場合は自動、もしくは手動で開放できるようになっている。

【0044】したがって、熱交換器21は、U字状の通風管24を有し、その一端を水槽2の温風吐出口に接続し、他端を送風機7の吸込口に接続し、また、冷却水噴霧用ノズルを水槽2の温風吐出口側の入口に設けることにより、温風循環経路の断面積を大きく取ることができ、圧力損失を小さく抑え循環風量を確保する共に、冷却水と高温多湿空気の接触面積を大きく取ることができる。

【0045】そのため、温風ドラム3内の布との接触、および冷却水との接触が十分に行え、乾燥性能が改善されると共に、循環空気の温度も低くなる。

【0046】また、通風管24に、水溜まりを形成することで、その水面でも熱交換が可能となるため、少量の冷却水を有効に利用しながら除湿性能を向上させることができ、乾燥性能の改善がさらに進むと共に、温風が水面にほぼ垂直に当たるため温風中に含まれる微細な糸屑が取り除かれる。

【0047】しかも、熱交換器で取り除かれた糸屑はオーバーフロー口より冷却水と共に排出されるが、そのときに残った糸屑は乾燥運転中に間欠的に排水口を開放することで機外へ排出される。

【0048】したがって、ほとんどの糸屑が熱交換器で除去されるため特殊なフィルタ等が不要になり頻繁な点検も不要となる。

【0049】また、水槽2の溢水防止のオーバーフロー口を温風吐出口22として、熱交換器のオーバーフロー口を利用することで配管数が減り（水槽2のオーバーフロー用の配管と温風循環用のダクトも兼用できる）組立性が向上すると共に、配管接続部が少なくなるため水漏れ等に対する信頼性も向上する。

【0050】さらに、乾燥終了検知用、温度過昇検知用の2個のセンサを熱交換器の入口と出口に配して、循環空気の温度を検出しているので、正確な温度の変化を捕えることができ、乾燥時間の短縮を図ることができる。

【0051】しかも、温度センサ、冷却水排出用の配管、冷却水噴霧用ノズル等乾燥に必要な部品の大半を除湿用熱交換器に取付けることで、組立性が向上し、シール等の信頼性確保も容易となる。

【0052】なお、本発明は、上記実施例に限定されるものではなく、本発明の範囲内で上記実施例に多くの修

正および変更を加え得ることは勿論である。

【0053】例えば、乾燥運転中に、開閉弁27を間欠的に開閉させる代わりに、乾燥運転中は開閉弁を閉状態に保持し、乾燥終了後、開閉弁を開放するよう制御してもよい。

【0054】

【発明の効果】以上の説明から明らかな通り、本発明請求項1によると、熱交換器はU字状の通風管を有し、その一端を水槽の温風吐出口に接続し、他端を送風機の吸込口に接続することにより、温風循環経路の断面積を大きく取ることができ、圧力損失を小さく抑え循環風量を確保することができるので、小型の送風機を用いることができる。

【0055】また、冷却水噴霧用ノズルを水槽の温風吐出口側の入口に設けるとともに、通風管に水溜まりを形成することでその水面でも熱交換が可能となるため、冷却水と高温多湿空気の接触面積を大きく取ることができる。

【0056】したがって、循環空気と冷却水との接触が十分に行え、効率よく冷却、除湿されるため、循環する温風の温度が低く保たれ、布傷みが低減するとともに、機内の温度上昇も抑えられるため部品の信頼性および耐久性が向上する。しかも、乾燥運転中の温度が低いため、使用中に誤って内部の水槽等に触れることがあつても安全である。

【0057】このように、少量の冷却水を有効に利用しながら除湿性能を向上させることができ、乾燥性能の改善を図れる。

【0058】また、温風が水面にほぼ垂直に当たるため、温風中に含まれる微細な糸屑を取り除くことができる。

【0059】請求項2によると、水槽の溢水防止用のオーバーフロー機能を除湿用熱交換器で兼用できるため、配管類が少なくなり、組立性が向上して、省スペース化、低コスト化が図れる。しかも、配管接続部が少なくなるため、水漏れ等に対する信頼性も向上する。

【0060】請求項3によると、熱交換器で取り除かれた糸屑はオーバーフロー口より冷却水と共に排出されるが、そのときに残った糸屑は乾燥運転中に間欠的に排水口を開放することで機外へ排出される。したがって、ほとんどの糸屑が熱交換器で除去されるため、特殊なフィルタ等が不要になり頻繁な点検も不要となる。

【0061】請求項4によると、2個の温度センサを熱交換器の入口と出口に配して、循環空気の温度を検出しているので、正確な温度の変化を捕えることができ、乾燥時間の短縮を図ることができる。また、温度センサ、冷却水排出用の配管、冷却水噴霧用ノズル等乾燥に必要な部品の大半を除湿用熱交換器に取付けることで、組立性が向上し、シール等の信頼性確保も容易となる。

【図面の簡単な説明】

9

10

【図1】図1は本発明の一実施例を示すドラム式洗濯乾燥機の側面から見た概略図である。

【図2】図2は同じく正面から見た概略図である。

【図3】図3は除湿用熱交換器の断面図である。

【図4】図4は制御装置の機能ブロック図である。

【図5】図5は従来のドラム式洗濯乾燥機の正面から見た概略図である。

【図6】図6は従来のドラム式洗濯乾燥機の側面から見た概略図である。

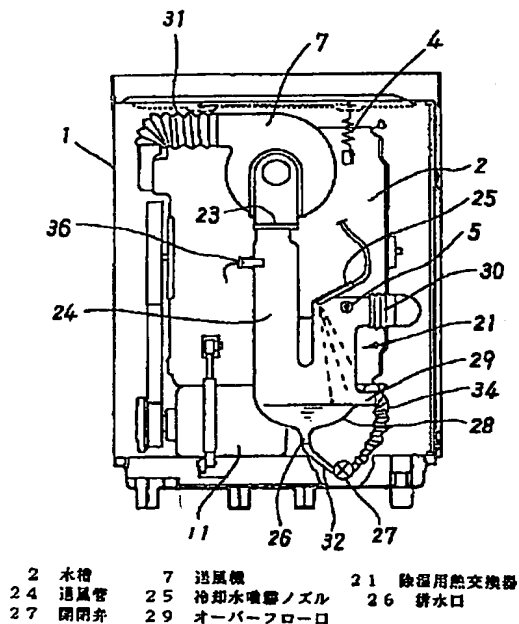
【符号の説明】

- 1 外箱
2 水槽
3 被洗濯物収容ドラム

- 7 送風機
20 乾燥装置
21 除湿用熱交換器
22 温風吐出口
23 吸入口
24 通風管
25 冷却水噴霧ノズル
26 排水口
27 開閉弁
28 曲がり部
29 オーバーフロー口
36, 35 温度センサ
41 制御装置

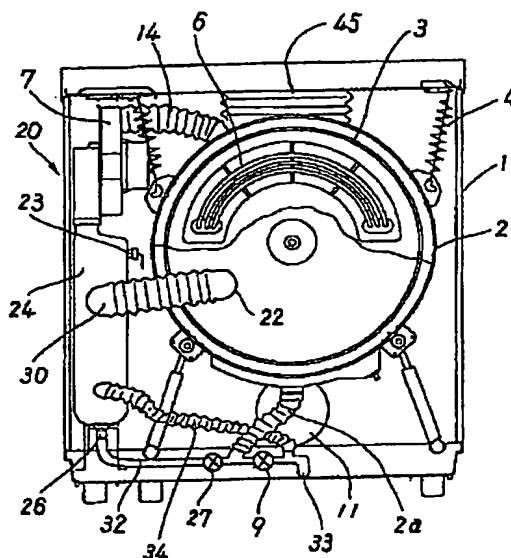
【図1】

図 1



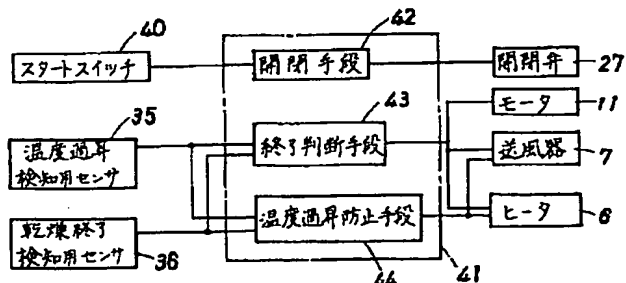
【図2】

図 2

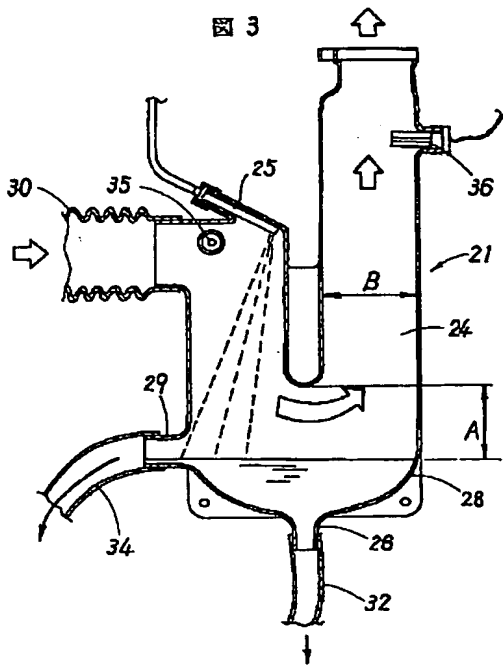


【図4】

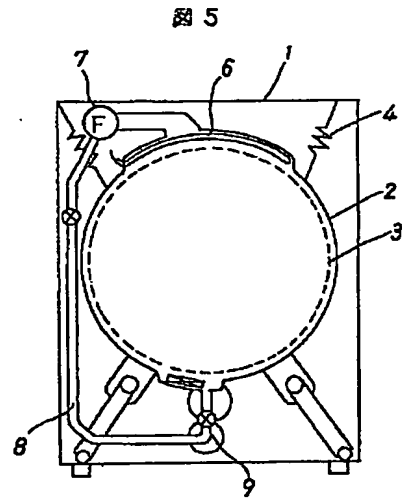
図 4



【図3】



【図5】



【図6】

図 6

